

## 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	170101018		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム 舞		
所在地 (電話番号)	札幌市中央区南25条西13丁目1-22 (電話) 011-520-5802		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】( 19年 12月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	14.55

## (2)建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	( 木造 ) 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(64,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	円	月額 43,000円

## (4)利用者の概要( 12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 愛全会 愛全病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは緑豊かな藻岩山麓にあり、住宅街であるがスーパー・飲食店等商店も近く、生活の利便性も確保している。建物の壁面に事業法人のキャラクターが描かれ、菜園・芝生スペースもあり親しみやすい雰囲気がある。居間・浴室・トイレ等は広くゆったりしており、アイランドキッチンからは居間全体を見渡すことができ、機能的な造りである。70ア壁面の本人・家族の作品である絵画等に季節感があり心地良い。居室には本人が使い慣れた日用品や思い出の写真が持ち込まれ、個別の工夫も見られる。事業法人の病院等との連携が得やすく安心感も高い。事業所の特徴である積極的な地域との交流は、住民の一員として役割を担っていく努力が続けられている。職員は笑顔が多く、利用者と一緒に暮らし喜び合う事が日常的に行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降も、利用者本位でその人らしい暮らしを続けるための支援、町の人々と行き来しながら支え合う地域との交流などに取り組み、ケアサービスの向上に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がサービス評価の意義を理解し、自己評価の一連の過程に取り組み、サービスの質の評価に生かしていこうとする姿勢が窺われる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営会議には家族・地域住民が参加し、ホームからは運営体制・活動内容と今後の計画報告や地域住民の一員として必要な役割を担っていく協働の方針に理解と協力を求めている。意見・要望について取り組み経緯などを次回の会議で報告しており、参加者に分かりやすい会議となっている。今後自己評価の内容と外部評価の結果を公表しその後の取り組み内容についても意見を受けることも踏まえ開催していく事としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎年実施している無記名の家族アンケートと家族交流会などで表出した意見・要望について発生要因・課題を検討し質の向上をめざす取り組みをしている。意見箱の設置を検討中であり、課題に対してホームの対応(回答)を家族等に公開することなど更に意見の表出につながる仕組み作りにより運営へ反映させていくことも有効と思われます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的な散歩の際に近所の人から「利用者の名前を呼んで挨拶」「外出などのお手伝いで出来ることはしますよと声掛け」をしてくれる間柄にある。町内会に加入し、お祭り・盆踊り・花壇の水まき等の行事に参加、今後サカイク活動と地区の倶楽部に参加も決めている。ホームで主催する夏祭りに地域の人々が参加、近所の小学生がホームに寄って話し、利用者も小学校の行事(ふれあいバザー)に参加する等積極的に地域と連携している。

# 評価結果 (詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「地域にねざし交流を深め支え合う暮らしの中に1日1笑」は、個々人の馴染みの暮らしの継続と地域との関係性強化を謳っている。地域や利用者のニーズと事業所の状況の変化をふまえ、来期に向けて新たに作り変えることも検討しており、独自の明確な理念づくりに取組みされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時、毎朝のミーティング、カンファレンスで管理者と職員は理念を確認し共有する機会としている。日常的なサービス提供場面で個別ケアの意識統一を図り、理念の具体化に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し日常的な散歩の際に「利用者の名前を呼んで挨拶」「外出などのお手伝いで出来る事はしますよとの声掛け」等がある間柄にある。ホームの夏祭りに地域の人々が参加、近所の小学生がホームに寄って会話し、利用者も小学校の行事に参加し続けている。今後町内会のリサイクル活動と地区の倶楽部に参加を予定、積極的に地域と交流している。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がサービス評価の意義を理解し、一連の過程に主体的に取り組んでおり、サービスの質の確保に評価を生かしている姿勢が窺われる。自己評価と外部評価の報告書がホーム内に掲示されており、誰でも閲覧できるようになっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営体制、活動内容と今後の計画報告をして、共に暮らす地域住民の一員として必要とされる役割を担っていきたいとのホーム方針に理解と協力を求めている。地域住民と家族等からの意見・要望について話し合いを行い、要望に対しホームでの検討経緯・結果を次回の会議で報告しており、参加者に分かりやすい運営会議となっている。		運営推進会議には、自己評価の内容説明と外部評価の結果を公表し、その後の取り組みの内容について質問・意見を受け、地域・家族の協力や利用者のサービスの向上のために、さらなる、弾力的な運営になる会議の開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市管理者会議・札幌市グループホーム協議会・中央区グループホーム管理者連絡会などに参加して情報を共有し、直接・間接的に行政方針の理解に努めている		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話による連絡と2ヶ月毎に発行する写真付き「便り」で、ホームでの暮らしぶりや行事の他、金銭管理の報告も定期的に行っている。 職員の異動は「便り」で報告していたが、今後は異動の都度電話などで報告することを検討している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年実施している無記名の家族アンケートと家族交流会で表出された意見・要望をホームの運営に反映している。 事業所の外部に運営推進会議・行政の相談窓口など家族等が意見・苦情を表せる機会があることも説明している。		意見箱の設置を検討中であり、意見・要望の課題に対してホームの対応(回答)を家族等に公開することなど、更に意見の表出につながる仕組み作りも有効と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる際は、利用者に丁寧に対応を説明し引き継ぎの時間を十分にとって、ダメージを最小にするよう配慮されている。 利用者と職員の馴染みの人間関係継続のため職員の異動・離職を最小限にする工夫と検討も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書を作成し、札幌市・北海道グループホーム協議会などが主催する外部研修と事業法人で企画する蘇生術・感染症などの内部研修が行われている。 研修後は報告書を作成しカンファレンスで伝達しているが、今後報告書の設置場所を工夫し、全職員がいつでも閲覧できるようにすることを検討している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市グループホーム協議会・中央区グループホーム管理者連絡会などに参加して交流し、研修会・相互訪問も行なわれている。 市内に男性スタッフの連絡会があり、職員がリーダーとして交流・連携に取り組み、実践的なケアサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に、本人・家族の実情や要望をもとにして十分な話し合いを行い、家族とのホーム見学・宿泊などを繰り返しながら徐々に馴染めるように支援している。 本人の安心と納得を見極め、個別の利用開始に移行してもらうように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごし生活の技や生活文化の大事さを教えてもらい、共に支えあうことを日常の中で作っていくことが必要で、利用者の生活歴から得意分野で力を発揮してもらうことにも留意している。貼り絵、木目込み絵の作品をホーム内に展示し雰囲気を和ませている利用者、料理に前向きに取り組む利用者もいて協働の実践例が見られる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいかどう暮らしたいかの視点に立って、MDS方式を活用し、関係者で話し合いを行い意向の把握に努めている。 把握が困難な利用者にも、一人ひとりの言葉や表情から推し測ったり、家族等から情報を得て思いを把握することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の生活内容を記録した気づきノート、申し送りノート、生活日誌などにより個別・具体的な情報を積み重ね、管理者・職員で意見交換した内容を反映した介護計画を作成している。 一人ひとりの計画を、家族等に説明する際にも意見を求め、確認・見直しを行いながら作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月毎に行うが、要望や変化が生じた場合は実情に応じて随時話し合う機会をつくり計画を変更している。月に1回程度職員が利用者の変化の兆しに対応するために情報を確認し検討見直しも行っている。今後更に職員が記録している利用者の状態変化や気づき等について、医師・看護師とも十分な意見交換を行い介護計画に反映していくことを確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院等のバックアップ施設と連携し、状況に応じて利用者・家族の要望に応じて支援している。 安心して暮らしを継続するために、通院、自宅・美容室・デパートへの送迎などその時々多様な要望に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業主体が医療法人で、病院との連携により定期的な医師の訪問診療と健康診断など必要な治療・医療のサポートを受けており、看護ステーションとの連携により看護師との24時間連絡体制の確保・日常的な訪問健康管理を受けている。 利用者の心身の変化に応じて、掛かりつけ医の医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時の「重要事項説明書」(契約書の補足書類)に、重度化した場合の対応が明記されており、関係者全員で方針を確認し共有している。 状況変化の都度、医師と家族を交えて具体的な話し合いを行い支援に繋げている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のミーティング時には利用者の個人名を発しないようにし、個別ファイル等の書類は一定の保管棚に収納されている。 更に書類の背表紙の表示を名前から番号に変える事も検討、情報の漏洩防止に努めている。 利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や感情に配慮しながら、利用者の希望・ペースに沿って、職員同士が工夫して柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とメニューを相談し、意志と力に合わせて買い物・調理・片付けなどを共に行い、職員も一緒に同じものを楽しく食べることを大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望・身体状況に合わせ、タイミングをみて楽しく入浴できるよう職員のローテーションを工夫し対応している。入浴を嫌がる利用者に対しては個別にくだらぬ気分になれるような言葉かけや音楽・入浴剤による対応も工夫し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内の菜園・畑・芝生スペースでくつろぎ、料理・縫物・貼り絵等で利用者の経験と知恵を発揮してもらえるような働きかけをしている。 花フェスタ・バラ園見学や演奏会等の行事の実施についても、利用者と相談しながら行い楽しみ事の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外で気分転換し生き生きと暮らせるよう、庭でお茶を飲み、公園で散歩、スーパーでおやつ・化粧品などを買い、近くの飲食店利用等日々行われている。 歩行が困難な利用者も、車や車椅子を利用して日常的に外出し行事にも参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室とも鍵を掛けていない。 職員は一人ひとりの傾向を把握するよう努め、利用者が出て行く気配を感じた時はさりげなく声掛けをして外出の支援もしている。 利用者の行動に近所の人々の理解・見守り・声掛け等の協力も得られるよう積極的に地域交流を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署と連携年2回防火訓練を行っており、避難路の確保・消化器の点検も定期的に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューにより栄養バランスを確保、身体状況により適正な栄養摂取量とカロリーを把握し個別に支援している。 一人ひとりの食事量・飲水量をチェック表に記録し、職員は情報を共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・浴室・トイレ・廊下など広くゆったりと作られており、アイランドキッチンからは居間全体を見渡すことができ、利用者が調理・片付け等に参加しやすい配置となっている。玄関ホールやリビングの片すみに椅子が置かれており、一人でゆったりとできる場となっている。フロアの壁面に掛けられた、利用者・家族の作品「切り込み絵」「紙粘土細工の花」などに生活感あり居心地の良さを整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・ベッド以外にも、利用者が使い慣れた時計・鏡・温度計や家族との思い出の写真・装飾品などが持ち込まれ、その人らしく落ち着いて過ごせる空間を整えた居室となっている。		